

## 第4回研究大会の概要

佐渡友 哲 (大会実行委員長  
秋田経済法科大学)

### 1. 研究大会の趣旨と解説

環日本海学会第4回研究大会(秋田大会)は、1998年10月31日(土)と11月1日(日)の2日間、秋田市文化会館を会場に開催された。日本全国から、さらに海外から研究者や実務家が一堂に会し、環日本海をテーマに議論する機会は、秋田県では初めてのことであり、大会事務局としては、この大会が学会員ばかりではなく県民を巻き込んだフォーラムの場になることを期待した。第1日の環日本海交流国際シンポジウムと第2日の研究大会分科会を広く一般に開放したのもそのためであった。

秋田大会の特徴を出すために、大会事務局としては以下のような企画を考えた。

- (1) 県民参加の大会にするため、産・学・官そして市民団体など各分野の方々に参加していただき大会実行委員会を組織した。
- (2) 大会テーマを一般の方にもわかり易いように「環日本海地域における人・物・情報の交流の変貌」とした。
- (3) 日本の社会科学系学会ではあまり重要視されていない「予稿集」を発行することにした。
- (4) 国際シンポジウムを開催し、そこでは対岸の都市とISDN回線を利用したテレビ対話を試みることにした。
- (5) 「ユースフォーラム」を開催し、地域の青年たちに環日本海交流促進のための具体的なアクション・プランを話し合っても

らった。

- (6) 韓国東北亜経済学会と学术交流協定を結んでから初めての大会となるので、同学会から会長、事務局長など3名を招待し、研究報告もお願いした。

- (7) 大会2日間の報告内容すべてを1枚のパソコン用CDに収録し、希望者に原価で購入していただいた。

ところで、大会事務局は当初、「物流」と「人流」をテーマの基本にしていた。これらに「情報」が加わったのには少々事情がある。それは、テレビ対話の相手側都市として当初、秋田市と姉妹都市関係にあるウラジオストク市が候補であったことにはじまる。同市にあるロシア極東国立総合大学との打合せ段階で、ISDN回線がうまくつながらないことが判明し、このことが環日本海地域の情報インフラに関心をもつきっかけとなったのである。テレビ対話は、金昌男教授の快諾と全面的な協力により、釜山の東亜大学校との間で実現した。同教授はじめ韓国電信電話局、東亜大学校の会場の皆様に感謝したい。情報インフラについては、大会事務局に情報管理の専門家がいたことにも助けられ、この地域に関する数少ない専門家を捜し出すことに成功し、「特別分科会」を設けることにまで発展した。

### 2. 基調講演と環日本海交流国際シンポジウム

基調講演「北東アジア環日本海地域における国際物流の将来構想」の講師には、特にこの地

域の物流に詳しい元運輸省局長の三橋郁雄氏（国際港湾交流協力会）にお願いした。三橋氏は、OHPで地図やルートを示しながら環日本海地域の物流ネットワークの現状を具体的に説明し、将来構想の要件として、①中国東北地域とモンゴルの日本海側窓口ルート、②大陸地域間の交流を円滑に進めるためのルート、③外貨獲得に大きく貢献するルート、などを挙げた。そして、優先的に取り組むべき具体的構想として下記の4つのことを提案した。

- (1) 日本と極東ロシアを結ぶ国際フェリー航路の開設。
- (2) シベリア横断鉄道によるトランジット貨物の取扱量の拡大。
- (3) 朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）と日本の日本海側港湾との間のコンテナ定期航路の開設。
- (4) 日本の日本海側港湾と北米とを結ぶ国際コンテナ航路の開設。

基調講演は、北東アジア全体にわたる物流のコンセプトや意義についての具体的でわかりやすい解説であったと同時に、将来の夢をも語ってくれたように思う。

環日本海交流国際シンポジウムは、大会テーマを掲げ、5人のパネリストにはロシア、韓国、中国、日本それぞれの立場と分野から発言していただいた。イリイン・セルゲイ氏（ロシア極東国立総合大学函館校校長／ロシア）は、ロシアと日本との間の学術・教育交流ばかりでなく、最近のロシア極東地域の経済状況についても関心を広げ、極東地域での市場経済改革は地域主義を生み出し、地域が自由に対外経済活動を展開するようになったが、同時に輸入依存が拡大して不況をもたらしている、という事実を率直に語ってくれたように思う。金昌男氏（東亜

大学校／韓国）は、日本への留学経験や北東アジア経済の視点から、韓日中の共同教育プログラムの開発、「韓日自由貿易地帯」の創設などに言及し、これらを出発点とした「北東アジア地域経済共同体」構想を提案した。

梁春香<sup>リョウチュンチャン</sup>（新瀉産業大学／中国）は、人的交流の視点から、北東アジアにおける経済交流の活発化や膨大な人口と観光資源の多様性に注目し、特に中日韓3国間の観光交流を中心とした「北東アジア国際観光圏」の形成を指摘した。駒形正明氏（テレビ新潟）は、情報交流の視点から、自らジャーナリストとして日本人として初めて図們江開発地域や吉林省延吉市などを取材した経験から語りはじめ、将来の構想として多言語放送の「国際衛生テレビ局」の可能性を探った。そして、小倉隆夫氏（おぐら製粉所）は、自ら中国に進出している企業家として、中国内陸の輸出入に見合う生産と消費の実需を知ることが強調しつつも、経済交流の基本には人間・文化の相互理解や共存共栄の精神が重要であることを力説した。

このシンポジウムの状況はISDN回線で韓国・釜山の東亜大学校の会場にも伝えられ、現地からは李浩永氏<sup>イホヨン</sup>と呉相根氏<sup>オサンゲン</sup>がパネリストの意見にこたえる形で発言した。パソコン通信独特の画面の動きではあったが、画質や音声は期待以上に良く、実験的な試みは成功したといえるであろう。パネリストたちの話題も幅広く、時々釜山からの発言を交えなければならない3時間半にわたるシンポジウムをバランスよくまとめ、定刻どおりに終了できたのも、コーディネーターの坂田幹男氏（福井県立大学）の力量に負うところが大きかった。改めて感謝したい。なお、このシンポジウムの様子は、昨年11月に、日本テレビ系列の放送局から「北東アジア・その交

流の変貌」というタイトルで放送された。

### 3. 研究大会分科会と「ユースフォーラム」

大会事務局では当初、5つ程の分科会のテーマを考えていたが、会員からの報告申し込みが予想以上に多くなり、嬉しい悲鳴をあげながら、特別分科会を含む9つの分科会を次のように組むことになった。

特別分科会「環日本海地域における情報インフラの現状と課題」

第1分科会「北東アジア地域の動向と課題」

第2分科会「朝鮮半島との交流の可能性をさぐる」

第3分科会「環日本海地域における物流の課題と展望」

第4分科会「地域における環日本海交流の取り組み」

第5分科会「21世紀の国土構造をめぐって」

第6分科会「環日本海交流の歴史的視点」

第7分科会「北東アジアにおける産業の諸問題」

第8分科会「北東アジア諸国の政策課題」

それぞれの内容をここで紹介する紙面がないので、本誌の各報告要旨を参考にされたい。より多くの人に希望の分科会に参加できるようにするためにも、ひとつの時間帯に多くの分科会が並ぶというプログラムは、もとより避けたいことであった。しかし、限られた時間に30名の報告者をテーマ別に分類するという作業の結果、残念ながら同一時間帯に最大4つの分科会が並んでしまった。それでも、各分科会にはそれぞれ30名前後の参加者がおり、多くの分科会で議論が盛り上がり、時間を大幅に超過するところもあったことを報告しておきたい。

イベント「ユースフォーラム」には、学部生

・院生・留学生を含む地域の青年たちが約30名集まり、3つのグループに別れて、それぞれ環日本海交流促進のための具体的なアクション・プランが話し合われ、青年らしい夢のあるプランが発表された。

### 4. むすび

秋田大会では、学会事務局からの大会資金のほか、環日本海国際学術交流協会、秋田県、秋田経済法科大学、秋田港国際化荷主協議会、東北電力、秋田銀行、北都銀行、その他多くの団体から寄付金が得られた。また、国際シンポジウムは日本海沿岸地帯振興連盟（日沿連）との共催で行うことができ、日沿連からも助成を受けることができた。それらにより、プログラム、ポスター、看板、予稿集などに通常以上のお金をかけることができたばかりでなく、テレビ対話や内外からのゲスト報告者の招聘も可能となったのである。協力下さったこれら諸団体に感謝する次第である。さらに、実験的試みであった釜山とのテレビ対話実現については、NTT秋田支店の全面的な貢献があったことを付記しておきたい。

秋田大会はテーマも一般的で、分科会の数も多くなり、全体として研究の焦点がぼやけた大会になってしまったかもしれない。会員の中には、若干物足りなさを感じられた方があるかもしれないと思う。しかし、2日間で延べ約400名の参加者を得られたということは、大会事務局が当初構想した県民参加の大会としては成功したといえるのではないか。地域の関心と事情を考慮した研究大会となったことにご理解を下されば幸いである。

## 目 次

---

[特 集]	
21世紀の北東アジア経済協力のあり方を考える —韓国東北アジア経済学会との交流をつうじて—	
Economic Interdependence and the Regional Logistics System in the Northeast Asia KANG Jung-Mo(Kyung Hee University) JUNG Pil-Soo(Korea Maritime Institute) .....	1
The Characters and Development Level of the North Korean Economy: Based on a Revealed Comparative Advantages of Trade JU Sung-Whan(Kon Kuk University) .....	17
The Rajin-Sonbong Free Economic and Trade Zone: Transport Expansion Needs and Financing Perspectives KIM Ick-Soo(Korea University) .....	28
韓日局地自由貿易地帯の創設に関する構想 金 昌男 (韓国・東亜大学校) .....	39
韓国・台湾における外資のプレゼンス —韓国における企業所有・支配の自国民主義の実態と意義— 金 鐘杰 (韓国・漢陽大学校) .....	53
「東アジア地中海経済圏」と域内協力の課題 小川 雄平 (西南学院大学) .....	68
21世紀北東アジアにおける日本と韓国の役割 —「東アジアモデル」とグローバル・スタンダードを超えて— 坂田 幹男 (福井県立大学) .....	80
北東アジアにおける地方間経済交流への反省と課題 —グローカリズムの意義と可能性— 唱 新 (金沢経済大学) .....	97
<hr/>	
[投 稿]	
ロシア「8・17」経済危機の原因を探る (中国文) 朱 显平 (中国・吉林大学) .....	114
経済の地域統合と反ダンピング法 —相互の反ダンピング法適用免除は可能か— 金 瑄元 (金沢大学大学院) .....	124

## 延辺経済の離陸への挑戦

— 図們江地域開発は延辺の運命を決める —

李 鋼哲（立教大学大学院） .....141

## 中国における日本の環境協力

笹岡 雄一（早稲田大学大学院） .....159

## 温州経済の歴史的展開

加藤健太郎（福井県立大学大学院） .....174

## [第4回研究大会報告要旨]

## 第4回大会の概要

佐渡友 哲（大会実行委員長・秋田経済法科大学） .....194

## 国際シンポジウム：環日本海地域における人・物・情報の交流の変貌

## 基調講演

## 北東アジア環日本海地域における国際物流の将来構想

三橋 郁雄（むつ小川原開発株式会社） .....197

## パネリスト報告

## 極東地域経済とその諸問題

イリイン・セルゲイ（ロシア極東国立総合大学函館校校長） .....199

## アジアの経済危機を乗り越えるための北東アジアの地域協力

金 昌男（韓国・東亜大学校） .....200

## 「北東アジア国際観光交流圏」の形成について

梁 春香（新潟産業大学） .....202

## 環日本海地域における航空路と情報交流「現状と期待」

駒形 正明（テレビ新潟放送網） .....204

## 体験的環日本海交流

小倉 隆夫（おぐら製粉所） .....207

## 特別分科会：環日本海地域における情報インフラの現状と課題

## 環日本海地域における国際光海底ケーブル

新納 康彦（KDD海底ケーブルシステム株式会社） .....209

## 東北大学・ロシア科学アカデミーシベリア支部間学術情報ネットワークシステム

工藤 純一（東北大学） .....210

## 第1分科会：北東アジア地域の動向と課題

## 21世紀の北東アジア—2025年の所得水準と経済規模—

宋戸俊太郎・浜田 充（環日本海経済研究所） .....211

秋田における人口構造の考察—環日本海地域のケーススタディ—として— 田中 史郎（秋田経済法科大学）	213
環日本海側都市における知的インフラの比較研究 櫛谷 圭司（新潟大学）・吉田 均（国際研究奨学財団）	215
<b>第2分科会：朝鮮半島との交流の可能性を探る</b>	
「朝鮮民族共同経済圏形成のためのワークショップ」提案が意味するもの 宮島 美花（早稲田大学大学院）	217
朝鮮民主主義人民共和国は交流のパートナーたりうるか 姜 日天（朝鮮大学校）	219
朝鮮における対外開放政策の経緯と現状—対外経済関係法の視点から— 三村 光弘（大阪大学大学院）	221
<b>第3分科会：環日本海地域における物流の課題と展望</b>	
経済的相互依存と北東アジア地域における共同物流体系の研究 姜 正模（韓国・慶熙大学校） 丁 必洙（韓国海洋水産開発研究院）	223
シベリア・ランドブリッジ物流の現状と課題—経済地理学の視点から— 野尻 亘（桃山学院大学）	225
秋田オーシャンフロンティア推進事業（外貿）に関するアンケート調査 荒牧 敦郎（秋田経済研究所）	227
<b>第4分科会：地域における環日本海交流の取り組み</b>	
環日本海（東海）経済協力と地域振興—友好姉妹地域間の視点— 千葉 康弘（秋田経済法科大学）	229
酒田市と黒竜江省の交易の現状と将来—東方水上シルクロードの将来性— 山田 光矢（国土館大学）	231
<b>第5分科会：21世紀の国土構造をめぐって</b>	
国土構造と産業競争力 山崎 朗（九州大学）	233
沿岸都市の都市構造とまちづくりの潮流—北海道・東北を中心として— 横川 憲人（北海道東北開発公庫）	235
秋田と岩手の地域連携と環日本海交流 中神 陽一（建設省秋田工事事務所）	237
日本海沿岸地域における地域交流・国際交流 奥住 雅彦（建設省北陸地方建設局）	239

**第6分科会：環日本海交流の歴史的視点**

古代における環日本海交流—日本から見た日本・渤海交流—

渡部 育子（秋田大学医療技術短期大学部）……………241

古代における環日本海交流—渤海から見た日本との交流—

酒寄 雅志（國學院大学栃木短期大学）……………243

大正期バブル経済と日本のシベリア進出—不況対策としてのシベリア出兵—

サーレル・スヴェン（金沢大学）……………246

歴史表象としての「ブラゴヴェシチェンスク」

下里 俊行（上越教育大学）……………248

**第7分科会：北東アジアにおける産業の諸問題**

ポスト・フォード主義時代における環日本地域の行方

—中国東北地域を中心にして—

川原 勝彦（東京国際大学）……………250

経済交流の陥没地域—長春市地域を中心として—

荒木 弘文（新潟中央短期大学）……………252

北東アジア地域における環境産業の発展現状と国際協力

龍 世祥（金沢大学）……………254

**第8分科会：北東アジア諸国の政策課題**

ナホトカ号油流出による環境被害の環境経済学的評価の手法例

桂木 健次（富山大学）……………256

中ロ東部国境協定をめぐるロシアの中央—地方関係

堀内 賢志（早稲田大学大学院）……………258

北東アジア経済協力の政治学

中戸 祐夫（立命館大学大学院）……………259

環日本海学会会則……………261

『環日本海研究』編集要綱……………263

『環日本海研究』執筆要綱……………265

役員・理事会……………267

編集委員会・編集後記……………268